

会員の皆様にお聞きしました

監修・分析/マゼンシニアリング代表
中小企業診断士 佐伯 昌之 氏

新南陽の景況感

調査概要

調査対象期間 2021年10月～12月(現状)における景況感と、
2021年1月～3月(今後)における景況見通し

調査対象 新南陽地域の企業80社

調査方法 商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収

調査項目 「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

業況D1は若干持ち直している、しかしほとんどの業種で業況D1はマイナス値、先行き見通しはプラスに転じる業種は無く、依然として厳しさが続く。

新南陽地域の2021年10月～12月期の業況D1の全産業合計値は▲56.8%となり、前期調査(7月～9月期)よりもマイナス幅が15.7ポイント縮小した。全国では、「第166回中小企業業況調査(中小企業基盤整備機構)」全産業の業況D1もマイナス幅は縮小している。

新南陽地域の今後3カ月の先行き見通しも、全産業合計値のマイナス幅は若干縮小する見通しとなっているが、従業員、設備以外はマイナス値を示している。全国では、「第166回中小企業業況調査」の全産業合計値も、マイナス幅が縮小する見通しとなっている。全国的には、日常生活の回復に

伴う外出機会の増加等で飲食・宿泊を中心としたサービス業の回復が続くほか、小売業では衣料品の需要に持ち直しの動きがみられる。一方、製造業を中心とした業種で部品供給制約による納品遅れ、原材料費の上昇によるコスト増加が続いている。加えて、活動正常化に伴う人手不足も発生しており、中小企業の景況感は回復基調が続くものの、力強さを欠いている。(商工会議所LEBO調査12月)

【卸・小売業】
業況D1、売上高D1、採算D1、仕入単価D1が前回の調査に比べてマイナス幅が拡大している。従業員D1、設備D1は前回と同じで100%(全事業者が不足)と回答。資金繰りD1はマイナス幅が減少している。今後3カ月の先行き見通しは、売上高D1はさらに拡大、資金繰りD1のマイナス幅は拡大し、▲100%(全事業者が悪い)と回答となる見込み。

コロナ禍以前の水準に届くのは程遠く、先が見えないと報告有。

【製造業】
売上高D1、採算D1が前回の調査に比べてマイナス幅が縮小、従業員D1は100%(全事業者が良好)と回答。仕入

DI (景気判断指数) 値とは？

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

DI = (増加・好転などの回答の割合) - (減少・悪化などの回答割合)

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業		保険業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-57.9	-53.8	-100.0	-71.4	-66.7	-66.7	0.0	0.0	-14.3	-20.0	-100.0	-100.0	-33.3	-100.0	-100.0	0.0
売上高	-42.9	-60.0	-83.3	-100.0	-66.7	-66.7	33.3	0.0	-11.1	-50.0	-66.7	-100.0	-25.0	-50.0	-100.0	33.3
採算	-81.4	-74.2	-100.0	-100.0	-75.0	-71.4	-100.0	-100.0	-50.0	-50.0	-100.0	-100.0	-71.4	-100.0	-100.0	33.3
仕入単価	-95.2	-88.6	-83.3	-63.6	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0
従業員	90.0	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	60.0	42.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
設備	75.0	33.3	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0	100.0
資金繰り	-71.4	-88.9	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	33.3	0.0	0.0	0.0

※前年比…2021年10月～12月と前年同月の比 見通し…今後3ヶ月(2022年1月～3月)の見通し

会員の声

【卸・小売業】

- ◇古川路線橋工による産業道路渋滞売上減少
- ◇コロナ禍以前の水準に届くのは程遠く先が見えない状況。イベント等、人の往来が盛んになることを希望します。
- ◇前年に対して、10月は落ち込み、11月は回復。今後もなかなか予想が付きません。

【製造業】

- ◇ウィズコロナに向けてのビジネスプランの作成(ニューノーマルに向けて)
- ◇まん延防止など、コロナの悪化でお客様が減少することはあるけど、落ち着いた時に、その分倍増して増減のある月があります。
- ◇福川を元気に!!

【飲食・宿泊業】

- ◇商品券、食事券の換金までのタイムラグで現金不足になる。人数制限で満席になっても以前の1/2～2/3程度の客数になり以前ほどの売り上げにはならない。
- ◇コロナウイルスの感染状況が落ち着いている間は消費は上がっています。オミクロン株の拡大次第では、昨年同様に厳しい状況になると思います。資金繰り、借入金の返済が課題です。
- ◇少しずつ来店客の動きあり。プレミアム付食事券などでお待ちかえり、来店が少しあり、年末の宴会需要はあまりなし。まだまだお客様も店も不安感はない状況。

【建設業】

- ◇ウッドショックによる仕入単価上昇、合板ショックによる合板不足。
- ◇ウッドショック、コロナ禍の生産体制調整による部品不足や半導体不足による設備納品の遅延による売上のズレ。コストの極端な上昇(材料原価)

【運輸業】

- ◇前年に引き続き船員の求職者が少なく採用活動に苦慮。
- ◇地域の物の動きに関しては前年と比較すると良くはなっている。但し、最近の原油価格高騰に伴う各種コストの上昇、特に我々物流業界にとって燃料費の高騰の影響が大きく利益率を下けている。加えて人手不足は続いている状況で、いかにして人員を確保するかが課題。
- ◇働き方改革は十分理解しているが、残業を減らすことで従業員の収入が減ることも事実。

【保険業】

- ◇コロナ感染が少し落ち着きを見せ、順次経済活動が再開されたように思えるがアフターコロナ等の新たな動きに対応すべく様々な方策を考える必要があると思われる。
- ◇自動車の販売台数が減少傾向、ほかの代理店との競争が激しい。高齢者の免許返納が増えた。新しい商品、特約が増えているが全体的に保険料単価ダウンしている。

業況D1、売上高D1、従業員D1、設備D1の項目が悪化する見込み。少しずつ来店客の動き有り。オミクロン株の拡大次第では厳しい状況になると報告有。

【建設業】
売上高D1が前回の調査に比べてマイナス幅が縮小している。設備D1は前回の100%(不足)がゼロになっている。業況D1、採算D1、仕入単価D1、資金繰りD1は▲100%(全事業者が悪い)と回答。されてる。今後3カ月の先行き見通しは、売上高D1もマイナス幅が拡大して▲100%(全事業者が悪い)と

回答)となる見込み。ウッドショックによる仕入単価の上昇、半導体不足による設備の調達遅延が売上げに影響している等、報告有。

【運輸業】
売上高D1は、前回の調査に比べてマイナス幅が縮小、設備D1はゼロからプラス(不足)となる。採算D1、資金繰りD1のマイナス幅は悪化している。今後3カ月の先行き見通しは、業況D1、採算D1、仕入単価D1は▲100%(全事業者が悪い)と回答)の見込み。燃料の高騰、人員不足等の報告有。

【保険業】
業況D1、売上高D1、採算D1は、▲100%(全事業者が悪い)と回答。逆に、従業員D1、設備D1は100%(全事業者が良好)と回答)となる。今後3カ月の先行き見通しは、業況D1、売上高D1、採算D1の▲100%(全事業者が悪い)と回答)が緩和し、ゼロ、またはプラスに転じる見込み。コロナ感染の落ち着きで経済活動の再開が感じられるようになったとの報告有。